

建設防災 ボランティアニュース 第77号

目次

- ・ 年頭の挨拶
- ・ 道路施設等点検は実施
- ・ 活動再開に向けての動き
- ・ 会員からの寄稿
- ・ 新会員の挨拶 他

年頭のご挨拶

明けましておめでとうございます。



新年を迎え、会員の皆様におかれましてはご健勝のこととお慶び申し上げます。昨年の秋以降、新型コロナウイルスの感染はだいぶ治まっては来ましたが、新たなウィルスの出現により引き続き警戒

が求められており、日常生活への影響も依然として大きいものがあります。

昨年の当協会は、コロナの影響で一昨年と同様に殆ど活動が出来なかったと言っても過言ではありません。定例総会の書面開催、勝どきミニツアーや川の愛護月間など都民を対象としたイベントの中止などのほか、建設事務所と連携する活動も参加人員や規模の縮小など、大きな制限を受け、十分な活動が出来ませんでした。

さらに、現時点で世界的にコロナ感染は一向に収まらず、さらに変異したウィルスの出現などにより、我が国を取り巻く心配要素は沢山あります。マスクの着用、手指の消毒励行など国民の地道な対策にもかかわらず、新型コロナオミクロン株の蔓延拡大の兆しが見え隠れしております。このような状況が続いた場合、イベント・行事の再開に向けての準備もままならないところがあり、会員各位にご協力をお願いすることもあるかと思えます。当協会の役割に期待する多くの声に応え、充実した事業を目指すためにも、会員の皆様のご理解をお願い申し上げます。

最後になりましたが、今年も引き続き東京都建設局、(公財)東京都道路整備保全公社、(公財)東京都公園協会の当協会への更なるご理解ご支援を賜ります様お願いするとともに、一層のご発展を祈念申し上げます。また会員各位の今年一年のご健勝をお祈りし、重ねて当協会活動の充実に向けご理解ご協力をお願い申し上げ、年頭の挨拶とさせていただきます。

東京都建設防災ボランティア協会会長

山口 明



道路施設等点検は実施

多くの活動が中止を余儀なくされる中で、前期の「道路の施設とバリアフリーの点検」が実施され、6 建設事務所班の 28 名の会員が参加しました。声をかけていただいた事務所の皆様方に感謝いたします。また久しぶりの活動に参加した会員の皆様方、ご苦労様でした。

後期の点検も実施が予定されておりますので、より多くの会員の参加をお願いいたします。

事務所	日 時	参加者
一建	6/28～7/8	3 名
二建	6/29～7/19	4 名
三建	現職のみで実施	-
四建	現職のみで実施	-
五建	現職のみで実施	-
六建	6/29～7/12	3 名
西 建	現職のみで実施	-

南東建	7/6	8 名
南西建	6/30	7 名
北南建	7/5～7	3 名
北北建	現職のみで実施	－
合 計		28 名

担当理事 久保田元久

コロナ禍の中の徒歩点検

7月6日(火)南多摩東部建設事務所ボランティア(敬称略、以下同。武内、織田、杉本、矢内、大坪、若尾、佐々木、柴田の8名)は南東建事務所(城田所長はじめ高瀬補修課長、相場統括課長代理、畠山主任の皆様)のご協力のもと、今年度前期の道路徒歩点検活動を実施しました。

当日は連日の雨天とは打って変わり薄曇りの中、活動(会員各位の日頃の行いの良さだと確信)することができました。当日の参加ボランティアの皆様は概ねコロナワクチンも接種済みの方がほとんどであり、多少の安心感の中での活動となりました。

当日朝、9時45分に全員が事務所に参集し高瀬課長さんからの挨拶説明を受けた後、午前10時に、本日の点検現場である町田街道(旭町交差点～原町田5丁目交差点)と鎌倉街道(旭町交差点～森野交差点)の二つの現場に向け徒歩にて出発しました。

今回の道路点検箇所は東京2020オリンピック・パラリンピックの聖火リレーコースとなる道路の直前点検であり、大変記念すべき点検となりました(残念ながら、その後、コロナ感染状況により島しょ部を除き、聖火リレーが中止され、シバヒロにおける聖火点検式のみ実施)。当日の点検では町田街道班(織田、杉本、大坪、若尾と畠山主任の5名)と鎌倉街道班(武内、矢内、佐々木、柴田と高瀬課長の5名)に分かれ、シバヒロ前の中町交番前交差点を出発地として現地に向かいました。

鎌倉街道班は旭町交差点から森野交差点までを右側歩道から左側歩道へと約1km間について

点検しました。この結果、1箇所のみ電線類地中化マンホール部の表面ブロック補装が経年劣化で少し浮きが生じている箇所のみを指摘させていただきました。

一方、町田街道班では、旭町交差点から原町田5丁目交差点までを左歩道から右側歩道へと約1kmについて点検しました。この結果、雑草除草など数か所について指摘させていただきました。

いずれにしても、上述の指摘は決定的なものではなく、既に、相当程度綺麗な道路でありましたが、より快適な道路環境の実現を希求するという視点からのものであり、今後も、事務所関係者の更なるご奮闘をお願いするところであります。こうした点検の結果、11時30分過ぎには中町交番前のシバヒロに両班が集合し記念撮影の後、所に戻りました。



帰所後、高瀬課長さんはじめ関係職員各位への御礼のご挨拶後、11時50分頃帰路につきました。途中、参加者全員により、コロナ対策がばっちり取られた某所にて、昼食反省会を開催し、8か月振りの皆様との情熱交換の後、最後には新副リーダーとなった若尾さんの締めを行った後、帰途につきました。末筆で恐縮ですが、現下のコロナ禍の中、大変、ご高配を賜った高瀬課長はじめ事務所関係者の皆様に深く感謝申し上げます。併せて、ご参加いただいた皆様、大変お疲れ様でした。

南東建班 柴田賢二

活動再開に向けて光も！！

本年も「感謝の会」の中止、「建設局初動対応訓練」への参加見合わせと、昨年と同様の状況が続いていますが、少しだけ光も見えてきました。

「道路の施設とバリアフリーの点検」は現在後期の活動が始まっていますが、協会への参加要請が増えているようです。

また、「勝どき橋ミニツアー」についても、道路管理部保全課、道路公社とも協議し、今後の再開に向けて準備を始める方針となりました。本月 4 月の開始を目標に、見学者の募集、工事を終えた勝鬨橋の内覧と新しい案内方法の確認、ガイドブックの改定などを進める予定です。しかしオミクロン株の感染拡大に伴い、不安要素が強くなってきました。良い方向に向かうことを心より祈っているところです。



広報担当 林幹生

会員からの寄稿

ボランティア活動がままならない中、前号で協会の活動以外の体験、経験等の寄稿をお願いしたところ、3 篇の原稿が寄せられました。ありがとうございます。

黄色い安否確認タオル

東京都建設防災ボランティア協会の発足に先立つ 2 年前の、平成 7 年には阪神・淡路大震災が発生しています。また今年は東日本大震災から 10 年が経過し、新聞・テレビなどのマスコミで、数多くの特集が組まれていました。

会員の皆さんは住んでいる地域により、町会、自治会又はマンション管理組合など、様々な名称で呼ばれている町内会に加入していることでしょう。そこでは年間を通して、夏祭りをはじめ防災訓練、交通安全・防犯パトロールなど、たくさんの行事が行われています。私も令和 2 年 4 月から今年 3 月までの 1 年間、自治会の防災・交通委員会役員と

して、防災訓練などに従事してきました。

さて、東京消防庁では、平成 26 年度の防災訓練に町会・自治会加入者のうち約 1 割が訓練に参加したと推定しています。これは逆に言うと大多数の加入者は、訓練に参加していないこととなります。ちなみに、私が住んでいる自治会(約 400 世帯)の訓練参加率についてみると、平成 30 年度 15%で、豪雨により中止になった令和元年度は 12%(予定)と減少気味でした。

訓練の現状はどこの町内会などでも同じ傾向がみられます。住民の高齢化が一層進み、いつも同じ顔ぶれか役員だけが並び、参加者を増やすことが困難な状況にあります。また、訓練を実施すること自体が目的になっているかのような、前例踏襲となりがちな訓練内容から、少しでも新しい試みが求められているのではないかと思います。

ところで、地震、大火や水害などの災害時における被害を最小限に抑え、防災活動を円滑に進めるため、東京都では、日頃から訓練による災害対応への習熟を図っており、毎年秋の防災の日に、都民に加え、行政機関及び警察・消防・自衛隊などの関係機関を含めて、約 1 万人が参加する大規模な「総合防災訓練」を実施しています。



本協会も、防災活動やインフラ整備などに精通し、知識と経験を有する会員が、行政機関と連携して、防災訓練への支援活動として訓練に参加しています。私も所属する南西建班 2 名が、担当の北多摩南部建設事務所、北南建班への応援として、「平成 29 年度東京都・調布市合同総合防災訓練」(9 月 3 日、多摩川河川敷での会員 17 名の躍動は『建設防災ボランティアニュース第 65 号』に掲載)に参加し、子供連れのファミリーをはじめとする参加者に、「土のう作り」体験を指導しました。

この訓練で、都としては初めての試みである調布市民約 2,000 世帯が参加した「黄色旗作戦」に関し、本部長(小池都知事)自らが説明を受けたことを小耳にしました。「え、それなに?」。その時は何も考えられず、「山田監督による高倉健主演

の松竹映画『幸福(しあわせ)の黄色いハンカチ』が、どうかしたのかなと思ったものでした。

後日、新宿区役所における町会連合会の防災訓練で、「防災黄色旗」の掲示率が 9 割を超えたという驚異的な数字を聞き、この「防災黄色旗黄」を自治会の防災訓練に取り入れようと、ノウハウを入手すべく、鈴木昭利副区長さんの伝手により、防災課長から紹介を受けて町会へのヒヤリングを考えました。しかし何分にも時期が悪く、区が総力を挙げ都内有数の繁華街「歌舞伎町」での新型コロナウイルス感染対策が開始されたことで、ご迷惑かと思い残念ながらあきらめました。

当初は、家庭にある白いタオルで代用することも考えましたが、自治会メンバーとの打合せで、映画での黄色いハンカチの情景を浮かべると捨てがたく、足立織物(株)から、黄色の生地に赤で「無事です グリーンタウン高尾」と記された、オリジナルのロゴ入り安否確認タオルを購入しました。

開催も危ぶれた自治会の「2020 年(令和 2 年度)防災訓練」は、コロナ禍の影響で市役所の起震車体験や消防署の消火器操作による初期消火訓練などは中止となったものの、予定された時期より遅れて 11 月 8 日(日)に実施されました。



あらかじめ配布した黄色いタオルを、「無事です」の意思表示として自宅玄関先などに掲げるとい、速やかな安否確認訓練と情報伝達訓練により、団地の防災力の向上を図ることを目的としました。今回の、「三密」を避け「自助・共助」による訓練のポイントは、自治会員だけでなく、未加入者も

含めた地域住民全員参加による安否確認と、各班役員による本部への情報伝達の 2 点があげられます。

朝 9 時からの団地一斉清掃後、午前 10 時 30 分より始まった安否確認は、参加者各自が家族の安全確認(電気ブレーカー、ガス及び水道元栓も)をした上で、「黄色いタオル」を玄関先などに掲げたのち、午前 11 時までには自らが撤収して前半戦を終了しました。参加者からの感想としては、「ロゴ入りで統一された黄色いタオルだったので、訓練に一体感を感じた」とのことです。



後半戦に入ると、自主防災隊を統括する隊長(自治会長)以下が、本部を自治会集会所に隣接する公園に設け、午前 11 時から情報伝達訓練を開始しました。既に 10 時 40 分頃から、タオル掲示を確認して参加者の安否状況を確認し、本部へ集合する役員からソーシャルディスタンスを確保して、各副隊長への報告、隊長の集約・総括を以って、午前 11 時半過ぎには訓練の全工程を無事終了しました。

「黄色いタオル」の掲示率は、自治会関係者と住民の協力を得て 8 割を超え、ほぼ地域住民全員参加の訓練になったと思っています。会員の皆様方のところでも、この「黄色いタオル」による防災訓練はいかがでしょう。

南西建班 中込 孝仁



ADV に係わって 24 年

建設防災ボランティアニュース No. 8 号で沼尻会長は「ADV は、阪神・淡路大震災、平成 9 年の石川県沖タンカー座礁災害を契機に、平成 9 年 6 月に発足」と述べられています。

平成 7 年の阪神・淡路大震災時は、上野動物園勤務でした。上野は「日本動物園水族館協会」の会長園であり、被災した神戸の動物園・水族館の動物達の受け入れ先を探しました。都民からは「震災時に檻が壊れ、逃げ出さないか。逃げたらどうするのか」という問い合わせが多くありました。

平成 9 年 7 月に「駐車場公社(現:道路整備保全公社)」へ異動となり、発足したばかりの ADV に係わることとなりました。協会の 20 年誌には「大崎理事長から目録を受ける別所会長と出席者の写真が掲載されています。7 月 23 日 16 時から贈呈式、私の当時の手帳の記載です。手帳には、11 月 27 日に開催された「第一回の研修会(第一庁舎 25 階)」にも参加との記述があります。

平成 12 年 8 月に「南東建」へ異動となりました。三宅島噴火の災害復旧に際し、大島噴火時に大島の土木課長として経験のある「五味副所長」が指名され派遣しました。このこともあり、翌 13 年の新年挨拶では『21 世紀が始まった。三宅を始めとする島の災害復旧に当所からも職員が行っている。早期の三宅島の方々の帰島と各島の災害復

旧を祈り、新世紀を皆さんと一緒に迎えられたことを祝しお年玉として、切手を贈ります。』とのメッセージを添えて、全職員に「三宅島噴火等災害寄付金付切手 2 枚組」入りのお年玉袋を配りました。現在も 1 袋を保管しています。

同年 1 月 17 日には「初動対応訓練」が行われ、協会からも大勢の参加を頂きました。参加者の皆様には、三宅島の切手がなくて、参加証として感謝のメッセージと共に「21 世紀に伝えたい東京の風物」切手をお贈りしました。

同年 7 月には、東京都を勇退し、某建設会社に勤務することになりました。同時に ADV に入会しました。会社では、防毒マスク携帯での三宅島の現地調査、新島のトンネル工事など、災害関係の工事に僅かながら係わりました。



大島噴火時は公園協会に在席し、大島の協会職員が被災されたのを承知していたこと等もあり島の復旧には強い関心を持っていました。駐車場公社が管理する、新宿西口地下広場『ガラスの扉』では、「東京愛ランド・フェア」が開催されます。平成 15 年 6 月に開催された時には、ニュース No. 8 に投稿し「売り子さんは、避難中の三宅島の方々であること。また、平成 13 年に南東建では、町田駅地下歩道の清掃を三宅島シルバーセンターに委託し、職場の確保に努めたこと等を紹介し、買物を通じ避難島民への元気づけ」を、協会の皆様にお願ひしました。

ADV 入会後は、動物園担当でした。動物園での「猛獣脱出対応訓練」を、ボランティアニュースで紹介させて頂きました。動物園は、指定管理導入と共に僅か 6 年(平成 12 年から 17 年まで)で、除外されてしまい、西部公園担当になりました。動物園という施設が存在するにも係わらず、ADV は不要とは、動物園 OB としては、未だに理解しかねています。理由をご承知の方は、ぜひ、教えて下さい。

ADV 以外の活動として、中川以東の低地水害に取り組んでいる「NPO 法人 ア!安全快適街づくり」



の活動に、多くの建設 OB の方々と共に係っております。

また、地元では、町会の防犯パトロール隊に属し、日々のパトロールと、災害時に備える訓練参加などの活動をしています。

ボランティア活動としては、市の考古系と民俗系の両資料館でガイドや小学生の学習の手伝いを平成 12 年から現在も続けています。

これからも、体力の続く限り出来る範囲で、ボランティア活動を続けたいと思っています。

西部公園班 小森和雄

西遊会

私は現在三つのボランティア活動に参加している。一つ目は「建設防災ボランティア協会」である。これについては皆様ご存知の通りでこれ以上述べない。

二つ目は名称を「西遊会」という。この団体の主な活動内容は栃木県足尾町の公園などの公有地に桜の苗木を植樹することである。30 年ほど前から年一回、20 本程度の桜の苗木を植えてきました。

足尾町はご存知の方も多いと思いますが、古河鉱業の足尾銅山で栄えた町です。日本の近代産業を牽引する町として栄える反面、産出した銅

の製錬の過程で亜硫酸ガスが発生し、製錬所近隣の山々は広い地域にわたり土壌が酸性化し、はげ山となりました。平成 12 年の三宅島雄山噴火の際も亜硫酸ガスの濃度が高く、全島避難



通洞 ゲートボール場脇の植樹風景

の理由の一つとなりましたが、幸いにも数年で収束しました。足尾銅山の場合は明治 10 年から昭和 48 年まで 100 年近くにわたり銅を算出した結果、酸性土壌のはげ山の他、渡良瀬川へ鉱毒が流出し、水生生物の大量死と下流の田畑に大きな被害を発生させました。これらが日本の「公害の原点」と呼ばれる足尾鉱毒事件です。渡良瀬川下流にあった谷中村は集団移転を余儀なくされ、その跡地は今「渡良瀬遊水地」となり、利根川治水の大きな役割を果たしています。

足尾町は昭和 20 年代後期に、町出身の子弟が東京の大学に入学する際に便利ようと町立の「東京学生寮」を設立しました。「西遊会」は西荻窪にあったこの学生寮の OB、OG で構成され、設立目的はお世話になった故郷足尾町へ恩返しをしたいということで、桜の植樹はその一環でした。近年は会員の高齢・少数化に伴い植樹は断念し、成長した桜の花見を楽しんでいます。



銅親水公園で植樹後の昼食

三つ目のボランティア活動は、2020 東京オリンピック大会の都市ボランティアである。昨年大会が延期されたため、これまで多くの研修だけに参加しているが、コロナ禍のためそれもリモートとなっている。現在(令和 3 年 3 月)のところ大会実施も危ぶまれているが、なんとかワクチン予防接種も始まったことから、コロナ感染減少を期待し開催してもらいたいものです。実施した際にはそのボランティア経験を本ニュースに掲載したいと考えています。

南西建班 高橋紀男

東京オリ・パラ大会シティキャスト



私は東京オリ・パラ大会の都市ボランティア(シティキャスト)として活動を経験しました。今回はその内容について報告いたします。

そもそもボランティアとして申込みをしたのは2019年の春でした。申込みをした理由は二つありました。ひとつは東京都の街づくりを35年経験したものとして、外国から観戦に訪れる多くの方に東京の魅力を紹介するお手伝いをしたいと思ったからです。ふたつ目は、単純にお祭りという賑やかな場に身を置いた思い出を作りたかったということです。結果はご存知の通り無観客の開催ということで、二つとも実を結びませんでした。

都市ボランティアは大きく分けて二つに分かれます。フィールドキャストとシティキャストです。フィールドキャストは各競技場・会場で大会運営の補助が主な仕事になります。競技の種類によって仕事内容も違うので研修内容も違うと思われます。と思われますというのは、想像だからです。フィールドキャストの方は、皆様もテレビで見たとおり無観客でも仕事がありますので生き生きと活動していました。また海外の選手団からもその活動について多くの称賛の声がありました。



私はシティキャストボランティアで、シティキャストは競技場・会場でお客様の道案内や各競技場への交通案内、障害者サポートが主な仕事になります。よって2019年10月から始まった研修内容も「手話」「東京の地理・歴史」「障害者サポート」「会場配置別の役割」などでした。よって大会直前に無観客大会と決定した後は、活動参加予定日と活動予定会場について再度アンケートがやり直しとなってしまいました。

私は五日間の参加日が一日だけとなり、参加会場も三つから一つとなってしまいました。結局、一日だけの参加会場も競技会場周辺とは関係のない都庁第一庁舎の二階フロアとなってしまいました。(都庁内での活動は新鮮味も何も感じませんでした。)

当日はボランティア仲間四人と5F控室でボランティアのユニフォームを着て30分程度の事前研修を受けましたが、二年前に想像していた活動内容との違いに私は意気消沈していました。

二階フロアでは、オリ・パラのマスコットや選手のユニフォーム、当日までにメダルを取った選手の写真などが置いてありました。仕事内容は第一庁舎内に設置されたコロナワクチンの大規模接種会場に来た方やたまたま来庁された一般客への記念バッジの配布など地味なものでした。



コロナ禍の影響で予定されていた集合研修もeラーニング研修に代わり、ボランティア同士の顔合わせも無くなり、まったくコロナに振り回されたボランティア活動となってしまいました。

私の部屋の片隅には、一夏の残念な思い出とともにボランティア上下のユニフォームと靴と帽子と冷却タオルと肩掛けカバンが空しくまだ置いてあります。

南西建班 高橋紀男

新会員のご挨拶

前号で新会員のご挨拶をお願いしたところ、昨年2月に三浦隆さんから頂きました。掲載が遅れてしまいましたが、原文のまま紹介します。



昨年(令和2年)の7月に退職しました三浦隆です。このたび建設防災ボランティア協会に入れていただくこととなりました。よろしくお願いいたします。8月より(株)東京テレポートセンターに勤めており、臨海部の青海にあるテレ

コムセンタービルに通っております。昨年来のコロナ禍のなか、職員研修所での研修も開かれておりませんし、テナントの会社さんもテレワークが増え、なによりイベントで賑わってきた臨海部であるだけに、静かな日々が続いています。先日は久々に大きな地震がありました。管理しているビルではエレベーターが正常に作動を停止するなど、大きな被害はありませんでしたが、あらためて緊急時の備えの大切さを身にしみて感じた次第です。

ボランティア協会の新入生でありながら、先輩の皆様と直接お会いすることもなかなかありませんが、いつの日かまたお目にかかれることを願い、さらに少しでもボランティア協会の中でお役に立てるよう、頑張りたいと思います。よろしくお願いいたします。

本部顧問 三浦隆

新会員の紹介

今年度新たに4人の方が入会されました。活動の場がなく、腕を撫しておられるかと思いますが、再開時のご活躍を祈ります。

相場敦司さん(本部顧問)

加藤直宜さん(五建班)

小林一浩さん(四建班)

島津哲也さん(三建班)



広報担当 林幹生

訃報



五建班に所属の坂元俊久さん(76才)が令和3年3月13日(土)にご逝去されました。坂元さんは平成23年に当協会に入会され、10年近くに亘り河川愛護月間行事や初動対応

訓練等の行事に積極的に参加されていました。

ながい間の活動に感謝するとともに、心よりご冥福をお祈りいたします。

庶務担当 佐藤清美

協会からのお知らせ

- ① 各班の活動報告をお待ちしています。下記編集担当理事又は林まで連絡願います。
林アドレス()
- ② 協会のH. P(東京都建設防災ボランティア協会掲示板)には、最新の情報、ニュースのバックナンバー、建設局報などが載っています。
アドレス(<http://tokyo-adv.info/>)

編集後記

新年を迎えて、ようやく1年ぶりの発行となりました。前号で願って早々に頂いた原稿や、活動が少ない中での貴重な原稿の掲載が遅くなってしまったことお詫びします。オミクロン株が猛威を振るい始め、未だ先が見通せない中、「明けない夜はない」を信じて、活動の全面再開とそれに伴う山のような原稿(?)をお待ちしています。(MH)

発行人 山口 明

発行 東京都建設防災ボランティア協会

新宿区西新宿 2-7-1

小田急第一生命ビル 20F

(公財)東京都道路整備保全公社内

編集 佐野正生、高橋紀男、林幹生、
堀内康彦、丸岡敏夫

